パパ・ママ子育て知恵袋

第４０回は「見て見てダンゴムシ」

　低学年の子供たちは男子も女子もダンゴムシが大好きです。
ポケットにダンゴムシがいっぱい入ったズボンを洗濯して、卒倒しそうになったというママがいます。それくらい子供たちはダンゴムシが大好きです。
　それほど愛していたダンゴムシですが、高学年になると気にもかけなくなります。１年生のときは手のひらに乗せたダンゴムシをなでながら「かわいい🤍」と言っていた女の子も、６年生になると「うげっ！　きもっ」などと言ったりするようになります。

　ダンゴムシだけでなく、ザリガニやらカマキリやらトカゲやらに夢中になっている小さな子供たちを見ながら、大好きなもの、夢中になれるものがあるならば、思い切り楽しめばよいと思います。
その時期だけの一過性のものであっても、今、好きなものがある、夢中になれるものがあるということが重要なのです。ダンゴムシだっていい。ネジやクギや石を集めている子もいます。戦隊ヒーローやヒロインに夢中の子もいます。
　たいていの場合、年齢とともに、その好きなものや夢中になれるものから卒業していきます。卒業して、別の好きなものや夢中になれるものを見つけていきます。

　大人になってから「なんで、あんなものに夢中になってたのだろうか」と不思議に思うことがあります。でも、その時の自分には、あんなものが必要だったのです。あんなもののお陰で、今の自分があるのです。
　ダンゴムシたちは「人格を形成する上で、極めて重要なもの」なのです。

　「見て見て！　ダンゴムシ！」とちいさな手のひらの上でもぞもぞ動くダンゴムシを自慢されたら、ぜひ「うひゃ～～～！　かわいーーーーー🤍」と、オーバーリアクションで返してあげてください。
大人になったママには、ちょっとハードルが高いかな？